

巡回企画展のご案内

ふるさとの駄菓子 —石橋幸作が愛した味とかたち—

Dagashi - Kosaku Ishibashi's Love Affair with Traditional Hometown Sweets-

会期：<大阪> 2018年3月9日(金)～5月22日(火)

<東京> 2018年6月7日(木)～8月25日(土)

会場：LIXILギャラリー



写真1：石橋幸作自筆画 駄菓子風俗図絵「駄菓子さまざま」

所蔵：博物館 明治村 撮影：佐治康生

「建築とデザインとその周辺」をめぐり、独自の視点でテーマを発掘するLIXILギャラリーの企画展では、大阪：2018年3月9日（金）～5月22日（火）、東京：2018年6月7日（木）～8月25日（土）の期間、「ふるさとの駄菓子 - 石橋幸作が愛した味とかたち -」を開催します。

吹き飴、かりんとう、ねじりおこし、かるめら焼…江戸時代より日本各地で庶民に愛されてきた郷土駄菓子の数々。戦後、徐々に数が減少する中で、その姿を後世に残すべく全国行脚した人がいました。

本展では、約半世紀にわたって諸国の駄菓子を調査研究した石橋幸作さん（1900-1976）による実資料約 200 点から素材で暖かいふるさとの食文化の一端を紹介し、地域に根ざしたもののづくりの伝統と駄菓子をめぐるデザインの魅力に迫ります。

開催概要

「ふるさとの駄菓子 - 石橋幸作が愛した味とかたち -」

Dagashi - Kosaku Ishibashi's Love Affair with Traditional Hometown Sweets-

会 期	<大阪>2018年3月9日（金）～5月22日（火） <東京>2018年6月7日（木）～8月25日（土）
開館時間	<大阪>10:00～17:00 <東京>10:00～18:00
休 館 日	<大阪>水曜日（祝日は開館）<東京>水曜日、夏季休業
会 場	LIXILギャラリー <大阪>大阪市北区大深町4-20 グランフロント大阪南館タワーA 12階 <東京>中央区京橋3-6-18東京建物京橋ビル LIXIL:GINZA2F
入 場 料	無料
企 画	LIXILギャラリー企画委員会
制 作	株式会社LIXIL
協 力	石橋佐吉、博物館 明治村
展示デザイン	ジョイントセンター株式会社

展覧会の見どころ

昭和 30 年代頃までは、穀物に単純な加工を施した菓子が地域ごとに形や味を変えて数多く分布していました。それらは白砂糖を使う上菓子に対して駄菓子と呼ばれ、日本の風土や歴史、季節などを反映した「ふるさとの味」として食されてきました。

石橋幸作さん（1900-1976）は、仙台で創業明治 18 年から続く「石橋屋」の二代目として生まれ、自身も菓子職人として伝統の郷土菓子を作りながら約半世紀にわたって諸国の駄菓子を調べ、その記録を絵と文字で残したばかりか、紙粘土を使って意匠を立体的に再現しました。その数は優に 1000 点以上にもなります。それらの記録は、すでに失われた風俗や駄菓子も多く含まれるため、庶民の暮らしや菓子文化を考察する上でも貴重な資料です。

本展では、全国で採集した駄菓子をスケッチと文字で記録した冊子類や、信仰、薬、道中、食玩、お茶請けの 5 つのグループに分けて展示する紙粘土による駄菓子の再現模型など約 200 点を通して、ふるさとの駄菓子の魅力や多彩さを紹介します。民俗学的分類で記録保存を試みた幸作さんの研究者としての側面をうかがいながら、細かく作りこまれた原寸大の細工模型の形や色彩の豊かさもお楽しみいただけます。これらの他、駄菓子売りの風俗人形や自筆の図絵なども披露します。幸作さんの駄菓子愛で埋め尽くされた会場をご堪能ください。

本展を通じて、全国の多様な郷土駄菓子にまつわる原風景を伝える機会となれば幸いです。

写真 2



写真 3



写真 4



写真 5



写真 6



●主な展示

<駄菓子行脚の記録>

石橋幸作さんは全国行脚して採集した駄菓子のスケッチと、名前や製法までも聞き書きした記録を自ら製本した冊子にまとめました。今展ではその中から7冊を紹介します。主な採集地は東北地方ですが、西日本、四国、九州にまでわたり、遠方まで足を運んだ足跡を伺い知ることができます。夫人を同伴し、手弁当で絵筆を片手に目指す町に着くと夫婦が道の両側に分かれて駄菓子屋をくまなく探し歩いたといひます。

苦勞しながら思いがけず出会えた喜びや、想像とは違う落胆の様子まで記され、駄菓子をめぐる悲喜こもごもが伝わります。ここでは、旅の記録帳(写真2)の他、明治期の駄菓子の商標ラベルや葉、引き札(広告)を集めたスクラップブック(写真3)や、道中の風物詩や訪ねた菓子研究者なども記録した絵日記、街道や駄菓子屋の店先を撮りためた写真アルバムなども展示します。幸作さんの人となりまでも伝わるような、生き生きとした絵と手記をご覧ください。

<紙粘土による駄菓子模型の数々>

幸作さんは、全国行脚し収集した駄菓子を、パルプにニカワを混ぜた紙粘土を用いて立体的にも再現しました。消えて無くなるものだけに、駄菓子特有の色とかたちを後世に残す手段として、培った飴細工の技量を活かして考案した方法です。また、再現だけでなく、調査研究する中で、その用途や目的によって駄菓子を5つに分類し民俗学的観点で捉え直したことも幸作さんの功績の一つです。それに従い、会場では、門前で売られる縁起菓子や宮中行事に由来する節句菓子、婚礼や法事といった個人の慶事における引菓子などの「信仰駄菓子」(写真4)、病人や産婦の栄養補給や薬効をうたった「薬駄菓子」(写真5)、道中の食糧やお土産にされた「道中駄菓子」、子供用に味や色かたちが工夫された「食玩駄菓子」、お茶と一緒に食べられる「お茶請け駄菓子」に分けて展示します。その他、吹き飴細工の模型には、狐の踊りや狸の腹たいこなどがあり、仕草も表情も豊かで見ていただけで楽しくなります。これらの模型類は考証再現されているだけに細かく作り込まれ、一見すると本物と見紛うほどの出来栄です。

<駄菓子商売風俗人形>

江戸時代から戦前まではまだ見られた行商人の記録として、幸作さんは、飴売りを中心に駄菓子商売風俗姿も紙粘土細工で残しました。(写真6)は「吹き飴の曲吹き」で、代表的な「千成瓢箪」を作る姿です。葎の棒の先から瓢箪を膨らます妙技は独特で、手振り身振りでも面白く演じてみせる飴細工師の風俗を見事にとらえています。その他、しんこ細工師、団子売り、せんべい屋など計9体を通して、駄菓子がかつてどのように売られていたかを紹介します。様々な口上までも聞こえてきそうな表情や細かな所作に注目してご覧ください。

リリース用画像

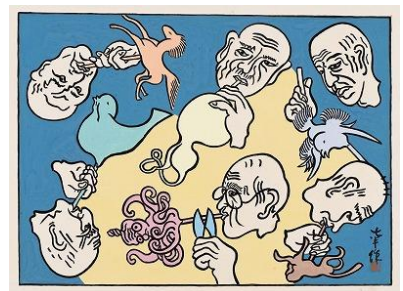
写真 7



写真 8



写真 9



本リリースに掲載された画像(写真1~9)の送付をご希望の際は、メールにて担当者までお問い合わせ下さい。また、ウェブサイトにはその他の画像も掲載しておりますのでご確認いただき、お問い合わせ下さい。

http://www1.lixil.co.jp/gallery/exhibition/detail/d_003978.html

【写真キャプション・クレジット】

写真 2: 『駄菓子通路 四国並裏日本之記』(昭和 35 年)。幸作さんは各地を旅しながら調査・研究した記録を、自ら製本した冊子にまとめた。右ページは新潟県高田で採集した「味甚(みじん) 落雁」、左ページは飛騨高山で採集した「いかばん」。目がブリキ製の笛になっている。

所蔵: 石橋佐吉 撮影: 佐治康生

写真 3: 『菓子商標レットル』 幸作さんは、明治 20 年~30 年頃の、各地の菓子店の商標ラベルや葉、引き札(広告)などを収集した。それらが貼り込まれた和綴の冊子。「嘉壽天以蘿(かすていら)」(左上)の商標には藤と麦の穂が描かれ、和洋折衷の趣が伺える。

写真 4: 信仰駄菓子の模型。左より「御華足/北海道江差」「串コ餅/秋田県雄勝郡」「福おこし/奈良」「彼岸饅頭/出雲地方」「うさぎ落雁/仙台」。

写真 5: 菓駄菓子の模型。左より「養老パン/全国」「八戸煎餅/八戸」「牛蒡葉餅/東北地方」「あがたくつわ/愛知県」「あぶ煎餅/弘前」

写真 6: 駄菓子商売風俗人形「吹き飴の曲吹き」。

写真 7: 『駄がし行脚 東北編』(昭和 36 年)。右ページは青森県大畑の「べこ餅」。節句の際に各家々でつくられる餅で、供えたり食したりする。以前は白と黒の二色だったが、色を組み合わせ美しい文様が描かれるようになった。左ページは山形の「雛落雁」。山形の雛祭りには 3 様に行われ今も縁起物として雛落雁が売られている。

所蔵: 石橋佐吉 撮影: 佐治康生

写真 8: お茶請駄菓子の模型。左より「げんこつ/青森」「葡萄にぎり(2種)/仙台」「なると餅/秋田角館」「小豆糖/青森」「餡玉/全国」「落花生パン/高知」。

写真 9: 石橋幸作自筆画「表情」。様々な表情で飴に細工を施している様子が描かれている。

写真 3~6、8~9 所蔵すべて: 博物館 明治村 撮影すべて: 佐治康生

関連企画のご案内

【講演会】ふるさとの食文化 仙台駄菓子から見えるもの

日時 2018 年 4 月 21 日(土) 14:00~15:30

講師 佐藤敏悦(東北民俗の会 会長)

会場 LIXIL ショールーム大阪 セミナールーム
大阪市北区大深町 4-20 グランフロント大阪南館タワー A 11 階

費用 無料(※要予約、定員 70 名)

予約方法 電話もしくはホームページから

内容

仙台には駄菓子が発展する要素が様々ありました。背景には仙台駄菓子を世の中に広めた立役者・石橋幸作氏の存在が欠かせません。藩政時代に遡り郷土菓子にまつわる歴史や種類などにも触れ、幸作氏の功績についても解説いただきながら仙台駄菓子の世界をひも解いていただきます。

駄菓子を通して仙台の食文化に触れるまたとない機会です。ご期待ください。

新刊 LIXILブックレットのご案内

LIXIL BOOKLET 『ふるさとの駄菓子ー石橋幸作が愛した味とかたちー』

3月中旬発売予定（80ページ予定、本体価格1,800円）

お問合せ

大阪会場／高橋麻希 東京会場／寛天留、村木玲美

xbn@lixil.com



LIXILは、創業期のクラフトマンシップを今に語り継ぎ、常に建築家やデザイナーと手を携え、機能性と洗練された美しさの融合を追求してきました。それこそが、私たちが掲げる「LIVING CULTURE」というコンセプトです。私たちはミュージアム、ギャラリー、資料館および出版活動を柱とした文化活動を通して、ものづくりの技と心を次世代に伝え、斬新なアイデアを発信する場を提供し、LIVING CULTUREを表現していきます。LIXILは、ものづくりにこだわり、ライフスタイルや時代に合った美しく機能的な製品を作り続けることで世界中の人びとの豊かで快適な住生活の未来に貢献していきます。